

各府省情報化統括責任者（CIO）補佐官等連絡会議  
ワーキンググループ報告（平成 21 年度） 概要

2010 年（平成 22 年）8 月 31 日

各府省情報化統括責任者（CIO）補佐官等連絡会議

CIO 補佐官等連絡会議において設置された各ワーキンググループは、府省共通の課題について検討し、平成 21 年度における成果を平成 22 年 5 月 19 日に CIO 補佐官等連絡会議に報告した。その提言の概要について、以下の通り報告する。

1. 情報セキュリティワーキンググループ

- 最高情報セキュリティアドバイザーで構成される CISO 補佐官等連絡会議との役割分担と連携
- 情報システムの設計・開発・調達における情報セキュリティの更なる検討
- 情報システム技術に係る情報セキュリティの更なる検討

2. 情報技術ワーキンググループ

- クラウドによる運用一元化と政府共用の外字文字セットの整備による共通化推進
- 各府省庁個別最適ではなく全体最適を進めるために、標準化の仕組みとして平成 21 年度 T R M (利用可能な形に整理された知識)の各府省庁での活用を進めること
- 技術の進歩に追従して T R M の継続的な見直しを進めると共に運用役務やサービス要件を明確化して T R M を拡充すること
- 政府全体での最適化を進めるためには各府省庁 C I O 補佐官が協力して連携していくことが必要

(参考) 情報セキュリティワーキンググループ 平成21年度報告書(概要)

情報セキュリティワーキンググループの活動

情報セキュリティ政策・制度の実施組織

取組み

意見交換

- ・情報セキュリティ政策に関する意見交換
  - セキュリティ・バイ・デザイン関連
    - NISCによるセキュリティ・バイ・デザインの検討状況
    - IPAによるCC認証制度及び認証製品の活用の検討状況
  - その他のセキュリティ関係政策関連
    - 電子政府ガイドラインセキュリティ分科会の検討状況
    - サーバ集約化に係る取組の検討状況等
- ・情報セキュリティに関わる技術動向に関する意見交換
  - セキュリティ攻撃関連
    - 米国等におけるDDOS攻撃への対応事例
  - 情報セキュリティテクノロジー関連
    - クラウドコンピューティングにおけるセキュリティ
    - 無線LANに係るセキュリティ
    - IPv6に係るセキュリティ等

内閣官房情報セキュリティセンター(NISC)で関連する政策

- ・情報セキュリティ政策に係る基本戦略
- ・各府省共通の情報セキュリティ対策の企画

情報処理推進機構セキュリティセンター(IPA)で関連する業務

- ・セキュリティ評価・認証制度

各府省庁で実施する政策

- ・各府省の情報セキュリティ対策

今後の検討課題

- 最高情報セキュリティアドバイザーで構成されるCISO補佐官等連絡会議との役割分担と連携
  - CIO補佐官と最高情報セキュリティアドバイザーの役割分担が必要であり、役割分担に合わせて、本ワーキングの位置づけも修正
  - 本ワーキングは、“情報システム”に係る情報セキュリティを中心として議論すべき
  - 必要に応じて、CISO補佐官等連絡会議とも連携

- 情報システムの設計・開発・調達における情報セキュリティの更なる検討
  - セキュリティ・バイ・デザインの更なる検討
  - CC認証制度と認証製品の活用の更なる検討

- 情報システム技術に係る情報セキュリティの更なる検討
  - クラウドコンピューティングに係る情報セキュリティ
  - 無線LANに係る情報セキュリティ
  - 府省庁で活用するテクノロジーに係るセキュリティ

# 情報技術ワーキンググループ 平成21年度報告書（概要）

## 現状課題① 計画時における課題

- ・最適化計画は業務視点から何を実現するか（WHAT）中心に策定され、システム的な視点からどう実現するか（HOW）については各最適化計画ごとに個別最適。
- ・どう実現するかという視点からあるべき姿（ToBe）を描くことが必要ではないか。

## 現状課題② 調達時における課題

- ・調達仕様書が各部局ごとに作成され、ばらばらであいまい。
  - ・調達の透明性、効率性、全体最適化の視点から標準（雛形）が必要。
  - ・基盤やインターフェースの標準化の観点から情報を標準化する方向で検討し、
  - ・標準の雛形としての参照モデルを共有していく。
- ⇒参照モデルとは利用可能な形に整理された知識

### 提言①

#### ToBeモデルの策定と共通化の推進及びアクション具体化

- ・クラウド等によるサービスと運用の一元化【霞が関クラウド】
  - ・汎用電子情報交換環境整備プログラム等の成果を活用し、政府共有の外字文字セットを制定して文字の相互交換の環境を整備すること
- ※ 経済産業省の委託事業で、外字の調査・整理・体系化を行うプロジェクト

### 提言②

#### 参照モデル（平成21年度版TRM）の各府省庁における活用

- ・各府省庁個別最適ではなく、全体最適を進めるために、標準化の仕組みとして経済産業省（IPA）で策定した平成21年度版TRMの各府省庁での普及を進めること【各種ガイドや指針、研修プログラムでの活用】

### 提言③

#### 参照モデル（平成22年度版TRM）の継続的な見直し

- ・経済産業省（IPA）TRMをさらに拡充し運用役務やサービス要件を明確化すると共に技術の進歩に追従してTRMの見直しを進めること

### 提言④

#### 府省庁を横断した情報共有の強化及び連携の推進

- ・各府省で情報を共有するための仕組みの整備
- ・各府省庁個別最適でなく、全体最適とするためには双方向で情報を共有するための体制の整備が不可欠
- ・政府全体での最適化を進めるためには各府省CIO補佐官が協力して連携していくことが必要

